

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年2月16日 (2017.2.16)

【公表番号】特表2016-512773(P2016-512773A)

【公表日】平成28年5月9日 (2016.5.9)

【年通号数】公開・登録公報2016-027

【出願番号】特願2016-503636(P2016-503636)

【国際特許分類】

A 6 1 M 1/14 (2006.01)

A 6 1 M 1/10 (2006.01)

A 6 1 M 5/142 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 1/14 5 9 3

A 6 1 M 1/10 5 2 5

A 6 1 M 1/14 5 9 0

A 6 1 M 5/142 5 0 4

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月12日 (2017.1.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 8】

図 1 2 および 1 3 ~ 1 4 に示された実施態様に従うと、座 (4 4) は、プラグ (3 8 0) が座 (4 4) の内側に固定されることを可能にするところの縁 (4 4 0) によって画定される。これらの実施態様に従うと、二重コネクタ (2 4) は、好ましくは、円筒状壁 (特に図 1 2 及び 1 3 を参照) として形成された縁 (4 4 0) で作られる。プラグ (3 8 0) が、完成した刺通可能挿入体 (3 8) を形成するように、二重コネクタ (2 4) 上に組み立てられるとき、該プラグ (3 8 0) は、対応する座 (4 4) の内側に収容される。それから、縁 (4 4 0) は、プラグ (3 8 0) に対して押圧するように折り曲げられ、そして対応する座 (4 4) の内側にそれを保持する (特に図 1 4 を参照) 。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

膜 (3 6) との関連において、上で既に述べたように、ビード形成による上記固定は、それ自体公知の方法、熱の施与、超音波又はスピン溶接によって得られうる。ビード形成は、刺通可能挿入体 (3 8) が、当然に該チャネルの開口を除いて、全体的に密封封止されるような仕方で行われる。言い換えると、プラグ (3 8 0) と二重コネクタ (2 4) の本体との間の接合部は、生理的液体が座 (4 4) と該プラグ (3 8 0) の間に浸透すること、ひいては外部に漏れうることを防止しなければならない。